

天溪 2015 年「ピレネー国境横断ハイキング 10 日間」

第 2 部

ピレネー山脈はフランス・スペインの国境に連なり、地中海から大西洋に至る全長約 400Km の山脈。この度ハイキングした地域はレコンキスタによるキリスト・イスラムが数百年に渡りせめぎ合った所。ツアーは 8 世紀後半フランク王国のカール大帝の時代に戦で敗れた彼の甥ローランを称えた抒事詩「ローランの歌」発祥の地、ガバルニー圏谷の上方のローランの裂け目を通りフランスからスペインへ国境越えをしました。山から下りてバルセロナへ向う途中にモンセラート修道院を巡り、最後はバルセロナでサグラダファミリアやピカソ美術館を見学しました。



(オルデッサ圏谷 8/24 日)

○国境越 1 日目 (サラデ小屋・フランス側)

国境越へ向かう朝は薄日が射すも、タンテ峠に着いた頃には空一面雲が覆い、入道雲も沸く怪しげな様相。ハイキングを開始して小一時間でブッシュャロ峠へ、ここにはホタテ貝の標識が。このマークはサンチアゴデコンポステラータへ向う巡礼街道の指導表。要はガヴァルニー村からこの峠を越え、明後日に泊まるトルラへ巡礼街道が通っている証です。しばらく進むと朝だと言うのに雷の襲来、30 分程で通り過ぎましたが中々凄まじい響きでした。サラデ小屋に着いて暫くすると天気は回復し、ガヴァルニー圏谷を上部から見下ろせる所までハイキング。小屋に戻ってほんの束の間、午後 6 時ころ雷鳴と共に今度は激しくヒョウが降り回り一面真っ白に。



(ローランの裂け目 8/23 日)



○国境越 2 日目(ゴリッツ小屋・スペイン側)

今日はローランの裂け目を通り国境越えの日ですが重めの天気。大雪田を迂回し直接裂け目を目指しましたが辺り一面濃い霧が垂れ込み行く手を阻みます。結局何も見えない裂け目の通過でしたが標高が下がるに連れて霧が晴れスペイン側のオルデッサ圏谷が広がりました。残念ながらピレネー最高峰のモン・ペルデュ(3352m) は雲に隠れ見姿を見せず仕舞いでゴリッツ小屋へ。 ※要はこの裂け目越えだけ天気が悪かったと言う事です、残念！



(オルデッサ圏谷 8/23 日)



○国境越え 3 日目

ゴリツ小屋を出て少し下った所にアイリス(アヤメ科)の群生を期待しましたが今年は時すでに遅く姿は無し。けれどもエーデルワイスの大群生が私達を迎えてくれました。エーデルワイスは石灰質の土壌を好み、遅咲きなのでこの時期でも結構楽しませてくれます。今日の宿泊地はトルラ村、谷あいには有り、ひっそりしていて趣が有ります。この村でビックリするのはメインの食事を頼むとワインが付いてくる事。どうも昔のスペインの風習の様です。



(オルデッサ圏谷 8/24 日)

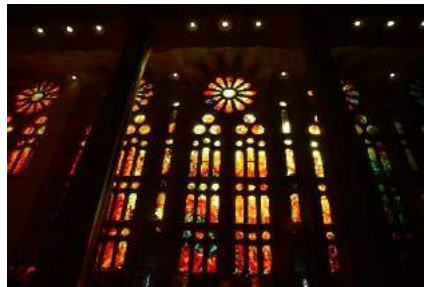


○バルセロナ

バルセロナへ移動の日は道筋に有るキリスト教聖地のモンセラート修道院に寄ってサグラダファミリアへ。モンセラートとは「ギザギザな山」を意味し、ガウディがサグラダファミリアを設計するのにイメージしたとか。夜はスペインの代表的な料理パエリアはじめシーフード、そしてワインで舌包み。最終日はピカソ美術館や市場を見学し山と歴史と味の旅を締め括りました。市場ではイベリコ豚が売られていましたが、値段はドングリをいかに食べたかで決まるようで、結構本場でも良い値段に驚きました。



(サグラダファミリア 8/25日)



天溪ツアーは8月27日発「ツールドモンブラン10日間」と続きます。

記 天溪 赤沼